進捗状況の概要　【１ページ以内】

交流プログラムの内容

総合芸術大学である本学の強み・特色を活かし、油画・彫刻・漆芸・デザイン・先端芸術表現・楽理・音楽環境創造・アニメーション・アートプロデュース等の様々な専門分野において、本学と連携大学の双方の学生・教員がユニットチームを組み、派遣・招聘・双方向等の多様な交流形態により、相互の特徴的な芸術文化・技芸を学び合う交流授業・ワークショップ等を共同授業として実施した。

また、共同授業の成果発表および社会実践として、本学と連携大学によるユニットチームが、連携大学が所在する都市・地域コミュニティ等を舞台として、地域住民、現地の非営利団体・官公庁、国際機関等、様々な関係者を巻き込み、展覧会、演奏会、フィールドリサーチ、アートプロジェクト、シンポジウム等を開催した。

平成28・29年度のいずれについても、派遣学生数・受入学生数ともに、計画時の目標を上回る実績を上げ、また、プログラムの特性上、教職員の交流も活発に行われ、両年度を併せた派遣教職員数は42名、受入教職員数は30名となり、プロジェクトの運営や学生に対する指導等を共同で実施した。

加えて、ユニットチームによる交流に参加した学生が、更なる学習として連携大学における短期研修・交換留学を行う取組も推進し、２年間で延べ７名の学生が、ASEAN諸国において学びを深めた。

質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

連携大学と本学との共同授業および協働社会実践については、すべて、本学および連携大学の双方の教員が参加する為、双方の観点・視点により交流プロジェクトの企画・実施や参加学生の評価がなされる体制が構築されている。また、各プロジェクトは、現地の自治体・団体やコミュニティ、連携大学の管轄省庁、企業等の参画・協力を得て行われ、専門家等の助言や意見が反映された。さらに、個別の交流計画の策定にあたり、外部有識者４名からヒアリングを実施し、活動内容を精査した。

加えて、連携８大学と、質保証に係る共通枠組の形成、各機関内での組織的コミットメントの向上、各国管轄省庁等からの支援拡大等を目的とした協議を進め、平成29年度には４大学と、双方の学長名による、本事業に特化したＭＯＵを締結した。

その他、本事業に係る「自己評価書」と「外部評価書」を毎年度作成し、取組の点検をしている。

外国人学生の受入および日本人学生の派遣のための環境整備

受け入れた連携大学の学生に対しては、歌舞伎の鑑賞、美術館・博物館・伝統工芸の工房等における学修、長崎県五島列島や鎌倉地域での研修、奈良・京都における古美術研究旅行への参加、絵筆や絵の具工場の見学など、日本の芸術文化や産業を広く体験する多様な機会を提供した。

本学の学生の派遣にあたっては、渡航先国の社会・文化・言語・宗教等についての事前講義を、外部講師の招聘等により実施し、その一環として、ASEAN諸国の伝統楽器をテーマとしたレクチャー・コンサート「DRUMS AND VOICES 2017」を開催した。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の国際、成果の普及

本学と連携大学とのプロジェクトには、他大学の学生や地域の住民・子供達等も幅広く参加し、活動内容・成果は、現地の報道機関や新聞に取り上げられた。また、プロジェクトごとに報告書等を作成し、学内外に広く情報・成果を発信した。本事業により、本学とASEAN諸国の芸術系大学とのネットワークはより一層緊密なものとなり、今後の継続的・長期的な交流に向けた強固な基盤が築かれた。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派　遣		受　入		派　遣		受　入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
１８人	２２人	１０人	２０人	３６人	５６人	１６人	２１人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【１ページ以内】

本学と連携大学の教員・学生のユニットチームによる共同授業・協働社会実践

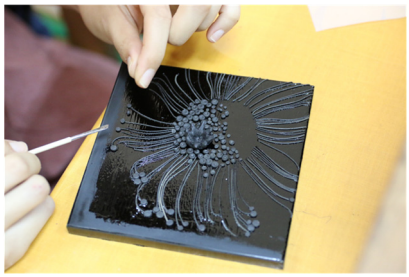
本事業の中心的な取組である共同授業と協働社会実践では、本学と連携大学の双方の学生・教員がユニットチームを組み、派遣・招聘・双方向等の多様な交流形態により、相互の特徴的な芸術文化・技芸を学び合う交流授業や、都市・地域コミュニティ等を舞台とした展覧会、演奏会、ワークショップ、フィールドリサーチ、アートプロジェクト、シンポジウム等を実施した。

ラオス国立美術学校との共同による「アンブレラプロジェクト」。
ワークショップで制作した傘を差し、町の風景をいつもとはすこし違ったものに変えた。

カンボジアで、子供達と一緒に現地の土を使った絵具作りのワークショップを開催。

カンボジア王立芸術大学と実施した、アンコール遺跡の修復現場での石材加工実習。

ホーチミン市美術大学との共同展覧会「三角測量――トーキョー・ゴトー・ホーチミン」。



バガン漆芸技術大学における交流授業では、ミャンマーの特徴的な漆芸技法を学んだ。

ミャンマー国立文化芸術大学では、伝統打楽器アンサンブル「サインワイン」を修得。

タイのシラパコーン大学では、産学連携によるアニメーション制作ワークショップを開催。

■取組の成果

様々なプロジェクトに参加した本学の学生は、それぞれの地で、ASEAN諸国の歴史・風土・文化・生活等を学び、体感しながら、連携大学の教員や学生をはじめとする多様な人々との協働の中で、自身が磨いてきた専門分野の知識や技能を活かし、社会における実践を経験した。

また、プロジェクトの一環として本学を訪れた各国の学生は、歌舞伎の鑑賞、美術館・博物館・工房等における学修、長崎県五島列島や鎌倉地域での研修、奈良・京都における古美術研究旅行への参加など、日本の芸術文化を様々な形で体験した。

学生同士、教職員同士が学び合い、理解し合う取組を重ねることで、本学とASEAN諸国の芸術系大学とのネットワークは緊密なものとなり、継続的・長期的な交流に向けた強固な基盤が築かれている。